2018年　ボウリングマガジン3月号に掲載されました。

弊社主催：PBAリージョナル
DHCカップ　PBAインビテーショナル2018

大会概要・結果の詳細は
弊社HPをご覧ください。

DHCカップ PBAジャパンインビテーショナル2018

1月27－28日／東京・東京ボートボウル

PBA公式戦、DHCカップPBAジャパンインビテーショナル2018は、イギリス出身のPBAプレーヤー、ドム・バレットが優勝した。予選上位16名のラウンドロビンをトップで通過し、優勝決定戦では両手投げのカイル・トループを相手に267－204と大差の勝利。PBA通算5勝目と優勝賞金500万円を獲得した。

文／正田晃佐　写真／高橋茂志

ユニオンジャックの猛攻

ドム・バレット、圧巻の8連発で初優勝！

RESULTS

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
ドム・バレット	224	248	278	257	180	204	227	267		
カイル・トループ	248	278	257	180	204	227	267	204		

優勝 ドム・バレット

PBAの新アニュアルパターン・ドラゴン（45フィート）は、全国各地で行われた選抜大会から火を吹き、熟練者たちをローゲームの渦に巻き込んだ。

しかし、世界を舞台に戦い続ける猛者たちは、強烈な高回転、緻密なコントロールでハイスコアを連発。その破壊力の高さに日本のボウリングファンは舌を巻いた。

予選10Gを投球し、上位16名がラウンドロビン（RR）に進出。昨年のPBAランキング上位11名は全員勝ち上がり、日本からは、川添奨太（49期）、日置秀一（43期）、そしてナショナルチームの新畑雄飛選手が名乗りを上げた。

RR序盤戦では、ジェイソン・ベルモンテをはじめ、カイル・トループ、アンソニー・サイモンセンら両手投げ旋風が吹き荒れる。日本人選手が苦戦するなか、昨年からPBAツアーに本格参戦し、レギュラーメンバーとなった川添は、時折コンディションの変化に戸惑うも、孤軍奮闘で上位を譲らない戦いぶりだった。

このRRでトップシードを獲得したのは、イギリスの名手、ドム・バレットだ。ツアー4勝を誇る32歳は、一昨年の両大会準Vの雪辱を果たさんとばかりに、安定のゲーム展開で勝ち星を量産した。

2位には「アフロフィッシュ」のニックネームで、ここ数年で急上昇したトループ、3位に川添、そして史上最年少メジャータイトリスト、21歳のサイモンセン、来席にチームUSAで活躍するマーシャル・ケントの5名がステップラダーに進出した。

リオイルされたレーンで始まったファイナルはサイモンセンが魅せる。30㎞を超えるスピードボールでアウトサイドを攻めると、ボールは吸い込まれるようにポケットヒットを続け、5フレで致命的な⑦－⑩スプリットに見舞われたケントに勝利。

4位決定戦は、3年連続でファイナル進出を果たした川添とのストライク合戦を278－257で制し、3位決定戦へと進んだ。川添はまたしても初のPBAタイトル獲得を目前にして、涙をのんだ。

しかし、3位決定戦でのサイモンセンはラインの変化からリズムを崩し、さらにはピンアクションの不運にまで見舞われてしまう。対するトループは、持ち前の派手なボディアクションで活躍するマーシャル・ケントの手投げ旋風が吹き荒れる。日本人選手が苦戦するなか、昨年からPBAツアーに本格参戦し、レギュラーメンバーとなった川添は、時折コンディションの変化に戸惑うも、孤軍奮闘で上位を譲らない戦いぶりだった。

このRRでトップシードを獲得したのは、イギリスの名手、ドム・バレットだ。ツアー4勝を誇る32歳は、一昨年の両大会準Vの雪辱を果たさんとばかりに、安定のゲーム展開で勝ち星を量産した。

2位には「アフロフィッシュ」のニックネームで、ここ数年で急上昇したトループ、3位に川添、そして史上最年少メジャータイトリスト、21歳のサイモンセン、来席にチームUSAで活躍するマーシャル・ケントの

▲アフロヘアで日本でも人気急上昇中のカイル・トループが来V。【自分の調子が良くても相手に2発7台打たれてしまったら仕方がない。今年最初の大会でいい成績が挙げられたので、2月から始まるメジャートーナメントへの弾みになりました】

▼川添との1投は278で勝利したアンソニー・サイモンセン。【1ゲームの1 9フレの途球で自分にツキがまわってきた】と感じたが、3位決定戦では4－6フレでレーンの変化に対応できず僅点まで額け上がることはできなかった

▲【左から）ケント、サイモンセン、バレット、トループ、川添の快進撃はサイモンセンの1投で止まった。ケントは「ラインの変化を読み切れなかった」と悔しがるも有意義な時間を過ごしたようだ

▲ストレス7番を残したが「悪い投球ではなかった」とそこから8連発。予選よりラウンドロビン、前よりも少方と投げるごとに調子が上がっていったというドム・バレットが通算5個目のPBAタイトルを日本で獲得した